

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500521		
法人名	有限会社 暮らしの里		
事業所名	グループホーム暮らしの里		
所在地	千葉県千葉市緑区大膳野町4-141		
自己評価作成日	平成30年1月26日	評価結果市町村受理日	平成30年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成30年2月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心して生活できるように、コミュニケーションを大切にし、信頼関係が築けるよう努めています。  
日頃の会話の中から、したいことややりたいことをみつけたり、思い出話から、食べたいものなどを聞くことで、楽しみに出来る行事企画を努めています。また、利用者様が発する言葉を否定せず、日ごろの様子や何気ない仕草を観察することで、その言葉の裏にある本当の真意を理解する様にも努めています。  
そのためにも、スタッフ間での情報共有も大切に、気付いたことや意見を発言しやすい職場環境であることにも 尽力しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの特性に合わせた支援を行う為に、日常のコミュニケーションを大切に利用者に関わっている。法人が医療法人でもあり、利用者及び家族から健康面及び医療面で安心できると評価も高い。個々の職員が利用者の変化や日常の中で改善すべき事項に気づき、職員間で情報共有をして検討し、合意形成をもって改善するという、チームワークの良い組織体制を構築していることがうかがえる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の個性を尊重しながら、家庭的で穏やかな日々を送る事が出来る環境づくりという理念を守るべく、利用者様の個性の把握、それに伴った対応方法を常に検討し、安心して生活できるよう努めています。	「あたたかみのあるもうひとつの我が家でありたい」という理念は職員間で共有に努めており、利用者の表情からも実践につなげていることがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の近隣の方への挨拶。敬老会では、地域のボランティアの方々のお囃子がありました。	散歩に出た時には近隣住民と挨拶を交わしたり、敬老会にボランティアの訪問があるなど、地域と交流する機会を持ち充実した生活につなげるような支援に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に、民生委員の方や自治会長の参加があり、ホームでの暮らしや活躍をお話しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成29年5月からは3か月ごとに行うように計画し、そこで出た意見は参考にさせていただきますようにしています。	今年度より職員体制も変わり、運営推進会議も計画的に開催できるようになった。事業所からの情報発信と地域からの意見を参考にサービスの質の向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことは質問したり、助言をいただいております。	法人代表が中心となって、市町村との連携に努めている。また、運営推進会議には地域包括支援センターが出席しており、意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を年間研修計画に入れ、必ず実施しています。玄関の施錠は行っていますが、玄関と思わず、開けてしまっ出てしまう方もいらっしゃることを理解して頂いています。	身体拘束、虐待、個人情報保護など基本的なことは年間計画に沿って研修を行っている。また、日常の中で気になる言動があれば、その都度職員同士が自ら注意し合えるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修を年間研修計画に入れ、必ず実施しています。また、利用者様に対して、上から目線の言葉を発しない様、言葉遣いにも気を配る様話をしています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている入居者様もいらっしやるので、制度についてや役割などを学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、家族や本人にホームを見学して頂いていますが、難しい方には、その方にお会いしに行き、十分な説明と不安な気持ちを聞くようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に近況報告をさせて頂いたり、何か変化があった時は電話にて報告させて頂いておられます。その中で、一方的にならないよう、ご家族の意見やお話も聞くように努めています。	利用者の意見や要望は日常的な会話の中で聞き取り、申し送りや会議で職員間で共有して支援に活かすようにしている。家族とも直接話すことを大切にしており、来訪時や電話などで意思疎通を図ってる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時に職員からの意見の場を設けています。また、日ごろからスタッフの意見や提案を大切にするようにしています。	経験のある職員も浅い職員もいるが、毎月のミーティングではさまざまな立場から意見を出してもらおうようにしており、反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度については、代表者に報告し、給料の見直しに反映しています。業務上の取り組みで、良かったこと、悪かったこともすぐに話すようにし、評価につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに得意分野を活かした役割をもってもらい、お互いに感謝の言葉を述べる様にしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あんしんケアセンターや介護支援事業所などを訪問し、ネットワークづくりを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、本人からの話から、不安や要望をさぐり、言葉かけを多くすることで、安心して接して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事と、本人が困っている事は違う事もあるので、場合によっては、本人にきかれたいよう電話などで話すなどの配慮を行い、信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か面談の時に検討し、提案させていただいています。他サービス利用に関しては、料金等も含め必ずよく説明するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にスタッフからの態度や言葉が、上から目線にならないよう注意しています。世話をされるという思いではなく、お互いに出来ないことを補うという気持ちで勤めるよう話しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	言葉数が少なかったり、認知症状が進行し、家族の顔が分からない方もいらっしゃるため、スタッフが間に入り、言葉添えしたり、おもしろいエピソードを話すなどして場の雰囲気よくなるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方が訪ねて来る機会はほとんどないが、そういう事があった場合は、関係が途切れないような支援を行いたいと考えています。	面会や電話の取次ぎなどを支援するとともに、家族等の協力も得ながら、これまでの関係性が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや散歩のときも、お互いを気にし合える関係を作れるよう、スタッフが言葉をかけています。孤立しないよう、部屋に戻られても、気にかける様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了し、入院中や他施設に転居された方も、近況を報告してくださったり、相談にも応じる様になっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	改めて話を聞くと、緊張されるため、日ごろのコミュニケーションや会話を大切に、その中から希望や意向を引き出すようにしています。	職員が一人ひとりの生活歴も把握したうえで、声かけしながら思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合も、表情や仕草などから理解するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後において、本人や家族に話を聞いたりして、生活歴を把握し、会話のきっかけや笑顔の引き出しに繋がっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースを大切にしながら、その方に合った方法で、現状維持が出来るよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス前にご家族やご本人の意向を確認しています。カンファレンス時は、職員の意見もききながら、現状に即した介護計画を作成するよう努めています。	職員全員から意見を聞き、利用者や家族の意向を反映して介護計画を作成している。3か月に1回見直しを行っているが、状況に変化があれば、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、行ったことだけを記載するのではなく、いつもとは違うこと、気付いたことも記載し、報告するよう指導し、介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況は面会時に伝え、変化がある時は電話にて報告し、対応に関しては一方的にならないよう、一緒に考えていくようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	車で10分圏内に、レストランやスーパーなどがたくさんある為、車でかけて、外出を楽しむ機会を増やしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員了解を得て、内科は往診対応で行っていますが、他科受診に関しては、ご家族の希望をきいて、ご家族受診をお願いしています。緊急時は、ホームスタッフで対応しています。	ホームの協力医が週一度の訪問で健康管理をしているまた、家族の協力により、入居前のかかりつけ医(専門医)を受診する人もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はありません。状態変化に関しては、主治医に報告し、指示を得ています。緊急時は救急搬送にて、協力病院に受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、介護サマリーを渡し、連絡を取って頂きやすいような関係を築いています。入院中は、ご家族に病状を確認し、了解を得たうえで、病院にも連絡し、退院後の生活の注意点も伺ったりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在ターミナルケアは行っていません。文書にてご家族へ通達しておりますが、介護が重度になりつつあるときに、ご家族へ再度お話しし、今後起こりうる問題や、対応について話し合いを重ねる様にしています。	入居時にターミナルケアを行っていないことを利用者や家族に説明している。重度化した場合は、本人と家族が安心して納得できるように、随時確認をしながら話し合いをしている。	終末期の対応をしていない事は伝えてはいるが、重度化した場合についても、指針として文書で示す事が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や連絡方法について伝えてあります。特に、注意が必要な方がいる場合は、再度連絡用のノートに記載し、誰もが対応出来る様にしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の他、あらゆる想定訓練の年間計画をたて、実施しています。	消防署立ち合いの訓練を年2回実施するほか、年間計画に沿って訓練を実施している。避難する際の担当者や役割をホワイトボードに掲示しており、迅速に対応できるようにしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることをいつも念頭において、尊敬の念を持った態度で接し、言葉かけや言葉遣いに注意するよう接遇マナー研修も重視しています。	利用者の尊厳を大切にしており、なれなれしい言葉遣いにならないように、朝の申し送り時に職員同士で確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、スタッフが決めてしまわない様、選択できるような声かけを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活で、助言やアドバイスとして口添えすることはありますが、過ごし方の無理強いはしないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方にあった服装になるように、衣類整理を一緒に行ったり、好みの洋服の買い物支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞いて、月一回リクエストメニューとして提供したり、行事に適した食事を提供しています。片づけはスタッフとともに行っています。	月に一度は利用者のリクエストに応えたメニューにしている。また、季節や行事に合わせてメニューを考え、食事が楽しいものになるよう工夫している。利用者は下膳や片づけ、洗い物などできるところで参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量はその都度チェックして、一日のトータル量を計算しています。体重や健康診断での結果を考慮して、個々の適量を決めて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや促しだけで出来る方、自分で出来るけど、ずっとついていないと出来ない方、全介助の方といますので、統一した介助が出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の傾向を把握し、個々に合わせて支援しています。また、排便も毎日確認し、丸二日でない時には名前をあげて、翌朝にそれぞれの指示のある便秘時の薬を服用して頂いています。	トイレで排泄することを大切にしており、一人ひとりに合わせた誘導を行っている。夜間も可能な限りトイレでの排泄を促すなど、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分量と、日々の体操や、歩行により体を動かす事も取り入れ、便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日と時間帯は決めています。ゆっくりと入浴出来る様に時間は長めにとっています。また、入浴時間帯に不在だった方は、時間をずらして入れるよう配慮しています。	週2回は入浴できるように支援しており、ゆっくりと入浴を楽しんでもらえるよう、時間などに配慮している。また、季節感のある菖蒲湯、ゆず湯なども実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自ら部屋に帰って休みたいと訴える事が出来ない方が多いので、本人の表情や様子から休息をすすめています。湯たんぽの使用や寝具の調整などで、安眠できるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰しもが服薬状況が確認できるよう薬指示票を薬棚に貼り付けています。また、薬の変更がある際は、スタッフに申し送りし、変更による様子観察も記録に残すようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことを活かしていただけるよう、レクなどに取り入れています。また、毎月楽しみと思っただけのような行事の企画も行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	悪天候ではない時は、散歩に出かけています。春から秋の時期は、外食や買い物などにも出かけ、気分転換をはかっています。	利用者の安全に配慮しながら、積極的に近隣に散歩に出掛けるようにしている。また、外食に行ったり、本人の要望により買い物に行くなどの支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭の自己管理をされている方はいらっしゃるが、買いたいものの希望を伺って、購入支援をすることはあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状をだしたり、家族に電話をしてほしいという要望は伺って支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーには季節の飾りを行い、季節に合わせた切り絵も展示しています。生活スペースは常に清潔であるよう掃除をし、整理整頓にも心掛けています。	居間には大きめのソファが置かれ、ゆっくりとテレビを見たり話をして過ごせるようになっている。毎日夕方から利用者と職員で掃除を行っており、清潔な環境に心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ思い思いの場所で、過ごして頂いています。なかなか利用者様同士で話をされることが少ないので、スタッフが間に入ったりしながら、話を輪を広げる様にもしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の生活動線にも合わせて、レイアウトを検討しています。殺風景な居室な方は、飾りなどを置いて、落ち着くような空間づくりにも配慮しています。	衣類等は備え付のクロゼットに収納している。利用者は、それぞれ自宅で使用していた品や家族の写真を持って来ており、居心地よく過ごせる居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はシンプルな構造になっており、安全に過ごせるよう家具なども検討しながら配置しています。必要な時は張り紙などしながら、場所をお知らせして、迷わないような工夫もしています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所